

地域文化倶楽部の理念・ 意義・課題克服の視点



学習院大学教授

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイド
ライン」作成検討会議座長

長沼 豊

(1) 地域文化倶楽部とは何か

なぜ地域文化倶楽部か①

- 生徒⇒学校卒業でリセット、専門性
- 学校⇒働き方改革、少子化の影響、教員の異動
(部の数は今のままでは持続できない)
- 生涯にわたって活動に取り組むことができる持続可能な形は？

なぜ地域文化倶楽部か②

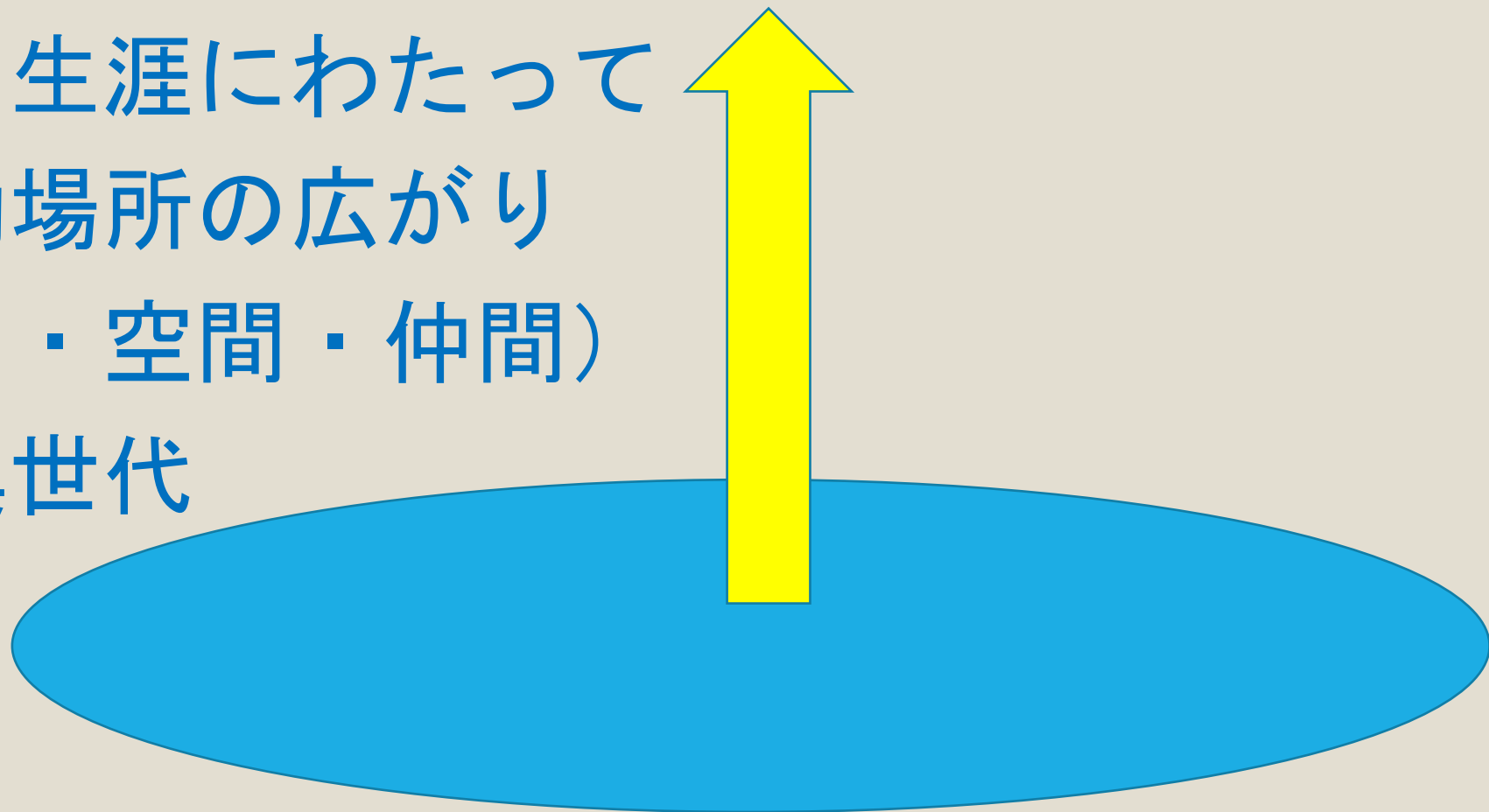
- クラブ（Club）は♣棍棒♣
（1つに集まる・社交場）
- 倶楽部は「ともに楽しむ場所」

地域展開と称した方がよい

- 「地域移行」というと、今までの学校で行ってきた部活動をそのまま地域に移すというイメージがあり、一部関係者から拒絶されてしまう可能性があり注意が必要
- 地域文化倶楽部は、部活動からの移行だけでなく既存の地域活動のリニューアルでもよい

地域展開で文化伝承・生涯学習

- 文化活動に生涯にわたって
- 地域の活動場所の広がり
- 3間（時間・空間・仲間）
- 異年齢・異世代



（2）文化部活動／文化活動の 地域展開における課題と解決方策

- 文化庁「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」平成30年12月27日
- 持続可能な活動を確保するため、長期的には従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる。このため、地方公共団体は、本ガイドラインを踏まえた文化部活動改革の取組を進めるとともに、**地域の実情に応じて**、長期的に、地域全体で、これまでの学校単位の文化部活動に代わりうる生徒の芸術文化等の活動の機会の確保・充実方策を検討する。

- 文部科学省「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」令和2年9月1日

この改革には、関係者の意識変革が不可欠であり、その際、国、地方自治体、学校関係者がそれぞれの役割を果たすことにより、今回の部活動改革が結実するものと考ええる。

- **地域の実情**に応じて
(全国一律ではなく)

- **関係者の意識改革**

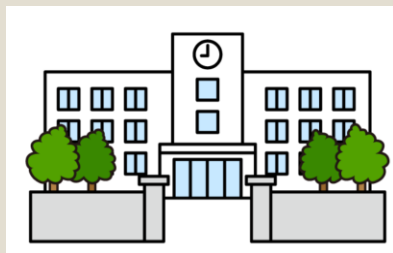
(今までの当たり前を当たり前と思わない)

※地域移行ではなく地域展開

いきなり地域展開はハードルが高い

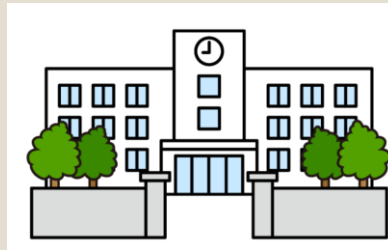
- そこでまずは**合同部活動**や**拠点校方式**※に
(※文化庁の推進事業の「拠点校」とは違う)
- 生徒が学校から移動して活動することに慣れる (生徒も大人も)
- そして、場所を学校から地域へ

合同部活動

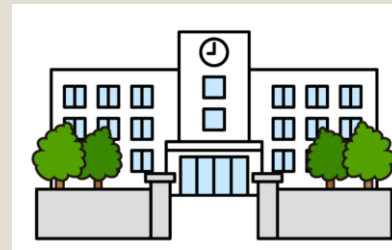


吹奏楽部（合同）

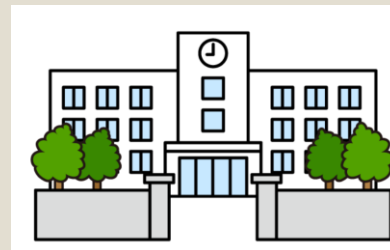
拠点校方式



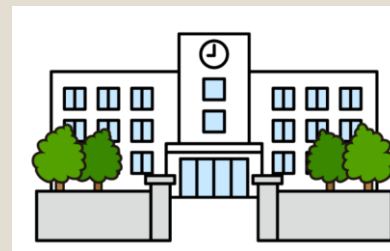
書道（拠点校）



合唱（拠点校）



演劇（拠点校）



吹奏楽（拠点校）



まずは合同部活動や拠点校方式に
（どちらも生徒が移動して行う方式）
⇒そして拠点（活動場所）を地域に移行
or 場所は学校で運営主体を学校から地域へ

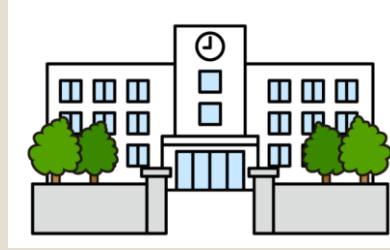
倶楽部は目的別に設置する

- 今までの部活動はみんな同じことをする
(例：大会・コンクールを目指す)
- ニーズの異なる生徒が混在している
(例：ゆるい部活が保障されていない)
- 個別最適ではない
⇒ **部活動の個別最適化**をめざして目的別に

目的別拠点（校）方式



コンクール志向の
合唱部



趣味の合唱部



異年齢交流型合唱部
（地域展開）

- 生徒は地域の活動拠点の中から目的別に選べる
（放課後に移動が伴うのは同じ）
 - この段階を経て全面地域展開へ（平日も）
- ★どの学校でも同じ事をやるという発想を変える
⇒地域展開だからこそ可能に

■部活動の地域移行の意義と課題

	意義	課題
生徒	持続可能性、異世代の学び	移動の手間
教員	異動に左右されない	地域でも指導する人の負担
保護者	指導・運営等に関わる機会	負担（費用・送迎等）
学校	働き過ぎの是正	連携
地域	教育力の向上、連帯感の醸成	人・物・金の確保と運営